学校評価・自己評価アンケート結果および後半期の重点事項について（報告）

福島県立保原高等学校　定時制課程

〇学校経営・運営ビジョンに沿った中間報告

Ⅰ　学力向上と学業継続

１　各教科では、基礎・基本の学び直しを重視した授業の展開をすすめています。「授業では基礎的な内容が多く含まれ、学び直しに役立っている」の項目で、生徒からは９５％という非常に高い肯定的評価を得ました。また、「学校の教室や設備に満足している。」の項目では、肯定的評価が９３％と高い評価を得ることができました。生徒用タブレットやプロジェクタ等のＩＣＴ機器を積極的活用した取り組みや授業の工夫、ＩＣＴ機器の整備による成果が表れていると考えられます。今後も指導方法を常に点検し改善を続けながら、学業継続に対する丁寧な指導実践につなげていきたいと考えています。

２　「コミュニケーション能力」を育成するため、各教科、総合的な探究の時間において言語活動を重視した授業の展開をすすめています。自分の考えや意見を他者に伝える力を養い、また、他者からも意見を聞くことでお互いの理解を深めさせる場を増やしていきたいと考えています。

「読む力」「書く力」を身につけさせるため、読書が習慣化するよう指導しています。毎週水曜日（放課後）を図書開館日とし、図書室を積極的に利用するようはたらきかけています。また、調べ学習、面接等で図書館を積極的に活用するなど、本と触れ合う時間を増やすとともに、さまざまな機会を利用して読書の大切さについて生徒に話をし、図書室の利用を呼びかけていきます。

Ⅱ　規範意識と社会性の育成

１　生徒の自己評価において、「部活動や学校行事等への積極的に参加している」の項目で、他の項目に比べ否定的評価が高い値を示しています。前年度比較でも、５０ポイント増加の学年がある一方で、全学年では２３ポイント減少となっている。目標を持ち部活動に意欲的に取り組む生徒がいる反面、部活動への関わりが少ない生徒も増えた結果が反映していると考えられます。また、コロナウイルス感染拡大防止により、県北定通体育大会の中止、学校行事の縮小実施により人との関わりの場や生徒間の連帯意識、友情の育成の場が減少したことも要因ではないかと考えています。今後も、コロナ禍において、今できる教育活動は何かを検討しながら、生徒たちへ学びの場を提供できるよう努力していきます。

Ⅲ　進路希望の実現

１　卒業後の進路や将来の生き方に関する項目では、肯定的評価は、保護者が８７％、生徒は８８％と昨年に続き概ね良好な数値を維持しています。『進路の手引き』の活用、進路教室での意識啓発、進路だよりの配付等による進路指導がさらに効果的なものになるよう、保護者へ積極的な情報提供を行いながら指導を充実させていきます。

２　進路希望の実現に向け、次の指導を行っています。

①担任・進路指導部職員と生徒との進路相談
②担任・進路指導主事と進路アドバイザーとの情報交換
③学習支援員による添削指導
④管理職を含めた全教職員による面接指導

少人数の利点を生かした、細やかな指導を行っています。指導をとおして生徒の意識を高め、生徒の進路希望を実現に向けた取り組みを継続していきます。また、早い時期から進路について考えさせることは、非常に効果的で重要です。将来像を具体的に描かせ、目的を持って学校生活を送らせたいと考えています。

Ⅳ　開かれた学校づくり

１　「学校と家庭との連絡や意思の疎通は適切にとられている。」の項目で、保護者の肯定的評価が95％と概ね良好な評価をいただきました。学校からの情報は、生徒を通じて配付するプリントだけではなく、日頃の学校行事や生活の様子や給食メニュー等、本校定時制ウェブサイトを随時更新して積極的に情報発信しております。今後も学校内外の行事や大会等の生徒たちの活躍をリアルタイムに発信していきたいと考えています。

○令和３年度　後半期の重点事項【定時制の課程】

	後半期の重点目標
学力向上と学業継続	**基礎学力およびコミュニケーションの向上（教務部・図書部・各教科）** ・各教科の授業に加え、総合的な探究の時間をより重視し、各教科・行事を横断的に機能させることで、生徒一人一人が主体的に行動し、社会的に自立できる力を身に着けさせるよう指導する。 ・学級担任との連携を密にし、生徒の欠席、欠課時数を把握しながら、生徒個々の課題を共有しながら学業継続の指導を行う。
規範意識と社会性の向上	**基本的生活習慣の確立（教務部・生徒指導部・保健厚生部・給食部）** ・相手にきちんと伝わるように、あいさつができるよう指導する。 ・欠席や遅刻、欠課がなくなるよう指導する。 ・基本的な生活習慣の確立を継続的に指導する。
進路希望の実現	**進路意識の高揚と４年生の進路希望の実現（進路指導部・各学年）** ・進路意識の高揚を図る。第2,3回進路教室を充実させる。 ・３年生で実施する進路適性検査を進路選択の基礎資料として活用する。 ・４年生の進路決定率100%を目指す。履歴書、面接、作文指導を充実させる。
開かれた学校づくり	**学校教育内容の積極的な発信（教務部・渉外部）** ・学校行事や授業・給食風景など、生徒の活動や生活の様子が伝わるよう、積極的にホームページを更新する。 ・ホームページや保護者宛文書等で学校評価アンケート結果を公開する。

〔各部における具体的な取組〕

部	具体的な取組
教　務　部	○総合的な探究の時間をより重視し、各教科・行事を横断的に機能させることで、生徒一人一人が主体的に行動し、社会的に自立できる力を身に着けさせるよう指導する。 ○打合せや学習状況懇談会、小委員会等を通して、生徒個々の課題の共有を継続して行う。 ○学級担任との連携を密にし、生徒の欠席、欠課時数を把握する。
生徒指導部	○日常の授業や空き時間・各種行事等を通じて、継続的にあいさつ等の指導を行う。 ○保健厚生部・給食部と連携し、コロナ・食育と体調管理について重点的に指導する。
進路指導部	○進路教室の実施、進路だより等を活用して、学年に応じた進路意識の高揚に努める。 ○４年生に対して、就職・進学に応じた履歴書、面接や作文指導をきめ細かく行う。 配慮が必要な生徒に対しては個別にしっかり対応する。
保健厚生部	○新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症予防に努める。 ○健康教室では性教育講演会を実施し、正しい知識や意思決定能力を養わせる。
図　書　部	○開館日のＰＲを通して来館を促すとともに、図書を充実させ、読書指導や調べ学習・面談等で図書館を積極的に活用し、本が身近にある環境に親しむ態度を育む。
給　食　部	○ノロウイルス等の食中毒を防止する。 ○給食室におけるコロナウイルス対策を徹底する。 ○給食室から足の遠のいている生徒に給食のおいしさ、大切さを伝えていく。
渉　外　部	○ＰＴＡ会報の充実を図り、生徒の学校内外での活動の様子を積極的に発信する。 ○同窓会の総会に向けて、運営に協力する。